

たくましく 心豊かな 地球市民	瞳かがやく 附属松本中の子ら <h1>すすかけの森</h1>	令和3年10月2日(土) 信州大学教育学部 附属松本中学校 学校だより No. 4
-----------------------	-----------------------------------	--



日ごとに秋の深まりを感じる季節となりました。また、前期の終了と同時に5月から始まった教育実習が終了し、大きな節目の時を迎えました。本校最大の行事「附中祭」が間近に迫り、準備や練習を行う声が、校舎のいろいろな場所から響いたり、仲間と制作する中で、笑顔が見られたりするなど、校内が明るさとエネルギーに満ち溢れています。昇降口のカウンタダウンカレンダーは「あと2日」。全校生徒の期待がますます高まります。

原則を鍛えて原理を探究する ～宮下 哲 副校長先生のお話より

【はじめに】

挨拶をします。みなさん、おはようございます。

皆さんの登校を、校門の辺りで迎えたり、授業中に学んでいる姿を見たりすると、「さわやかだな」「清潔だな」「清々しく凛々しいな」とうれしくなります。休み時間や放課後に「委員会で任された役割に励む様子」を目にすることがありますが、任されたからやっている…という義務感よりは、仲良く・責任感を発揮して、楽しそうに、生き生きと取り組む姿に接し、「私も頑張るぞ」と勇気が出てきます。

ところで、こうした雰囲気…空気というか、風というか…はどのようにつくられてきたのでしょうか。

【ものやひとのもつ「理」を生かせるように、自分を鍛える】

例えば、このところ、ほうきが壊れないのです。

「なんだ、そんなことか」とか「それがどう関係するの?」という声も聞こえてきそうですが、物や事が壊れないでいるというのは、案外深い意味があるように思います。

壊れないということは、人間が勝手なことをしていない、ということのように思うからです。

ほうきがよく壊れたときには、ほうきは、ほうきが本来もっている働きを生かされずに使われていました。振り回したり叩いたり…それを手に取る人が、ほうきの働きを無視して、自分の都合で、勝手に使っていたのです。でも、最近はどうでしょう。ほうきの働き…というか持ち味というか、大げさに言えば、ほうきという道具の「理」をわかって、理を生かせるようにしている。物を勝手に使ったり要らなくなったら捨てたりするという仕方ではなくて、物を生かせるように、使う自分の方を鍛えている。人間の方を鍛えている。だから壊れないんだと思うのです。

皆さんは、こうした「理」を理解し、お互いに持っているよさを生かしているから、物や事がこわれずに、皆さんがもっている「爽やかさ、清潔さ、仲の良さ、生き生きしているというよさ」が「LINK」していきんだと思うのです。

皆さんの周りを、そのような目で見たとき、似たようなことはないですか？



- 自分が、いいな、こうした方がいいな…と思っていることは、もしかしたら原則…通用する範囲が限定的な決まりごと。
- その原則をみんなで出し合って、協働して仕事をして、動いていく内に、原則が鍛えられて、原理が見えてくる。
- みんなの原則が交わったり、余計なものが削がれたりして、原理が見えてくる。
- 原理が見えてくると、視野が広がり、自由度が広がる。一緒に働く人と仲良くなる。
- でも、その原理も、まだまだ本当の原理ではないから、またみんなで仕事をして、原理を探究する。

【クラスや学年・学校の持ち味を発見し育てよう】

皆さんのクラスや学年、それらを合わせた松本中の理・空気・雰囲気・におい…もつと言えば文化も、きっとそのようにして鍛えられ探究されてきたに違いありません。

そのことを、附中祭という、締めくくりの時期にある大事な行事を通して、十分に味わいましょう。学年やクラスの理を味わうだけでなく、自分自身の中にある原則や原理、友達の高さや持ち味を発見し、それを後期に向けて育てていきたいですね。みなさん、4月からの6ヶ月よく頑張りました。